

## 生きものいっせい調査 2020 について【指導用資料】

いつも「生きものいっせい調査」にご協力くださりありがとうございます。「生きものいっせい調査」は、2015 年度より沖縄県が実施している、小学 4～6 年生対象の生きものアンケート調査で、今回で 6 回目となります。

みなさんは、アオカナヘビを見たことがありますか？アオカナヘビは、昔はどこでも見つかる身近な生き物でしたが、最近は減ってきているといわれています。でも、アオカナヘビが今どこにどれくらいいるのか、きちんと調べられたことはなく、実はよく分かっていません。

これまでの生きものいっせい調査の結果から、アオカナヘビ類とキノボリトカゲの確認率（全回答数に対する見つけた回答の割合）が低下傾向にあることがわかりました。毎年参加してくれている学校が違うので一概にはいえませんが、もしかしたら、ここ 4、5 年の間にも、これらの生き物が減ってきていることを示しているのかもしれません。

また、特定外来生物に指定されているグリーンアノールは、沖縄県では沖縄島中南部と座間味島で確認されており、さらなる分布の拡大が懸念されています。実は、生きものいっせい調査では、確認されていない地域からも毎年見つけたという回答があります。専門家からも、児童のみなさんの回答が、こうした外来種の分布拡大の把握につながるのではないかと期待されています。

この調査は例年夏休みに行ってきましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校により夏休み期間がまちまちになっています。そのため、夏休み期間にこだわらず、7 月 20 日（月）～8 月 31 日（月）を実施期間としています。大変な中とは存じますが、沖縄県の自然保護のため、また児童が自然に興味を持ち、自然環境について考える機会をつくるためにも、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

調査のポイントと、対象の生き物についてまとめました。先生が児童のみなさんから質問を受けた場合などの参考にして下さい。

### 調査方法と調査のポイント

- アンケート用紙（同封のカラーの横長の紙）に記載の 9 種類の生き物を探して、アンケート用紙内面「生きものさがシート」に記入してください。
- 結果は校区ごとに集計して生き物の分布を調べるので、学校や家の近く（校区内）で探してください。
- わざわざ探しに行かなくても、通学路や校庭でふだん見かけたものを回答してもらっただけでも構いません。探しに行ける場合は、身近な公園などで探してみるようにご指導ください。
- 生き物の分布を調べるには、「見つからなかった」という情報もとても大切です。身の回りに対象の生き物があまりいなくても、ぜひ「見つからなかった」ことを報告してください。
- グリーンアノールは、外来生物法により特定外来生物に指定されており、飼育や移動が禁止されています。危険な生き物ではありませんが、見つけても持って帰ったりしないようにご指導ください。

## 1. アオカナヘビ類

**方言名:** ジューミー、チャールー、アンダチュー、マースケーなど

**概要:** アオカナヘビ、サキシマカナヘビ、ミヤコカナヘビの3種がいる。アオカナヘビがトカラ列島と奄美諸島、沖縄島や久米島など、サキシマカナヘビが八重山諸島、ミヤコカナヘビが宮古諸島に生息し、いずれも固有種(世界中でその地域にしかない種)。キノボリカゲやグリーンアノールより細長く、キノボリカゲより表面がなめらか。アオカナヘビのオスは茶色っぽい緑色で、体の側面がこげ茶色。メスと子どもは全身緑色。雌雄ともに体の横に白い線がある個体が多いが、ない場合もある。サキシマカナヘビ、ミヤコカナヘビには体側の白線はなく、雌雄ともに緑色。アオカナヘビは約25cm、サキシマカナヘビは約30cm、ミヤコカナヘビは約20cm。しっぽが長く、しっぽを押さえるとすぐに根元から切れてしまう。切れたしっぽはしばらく動くので、アオカナヘビの捕食者はしっぽに気を取られてしまい、本体は逃げる事ができる。ミヤコカナヘビは絶滅危惧IB類、また小浜島・黒島のサキシマカナヘビは絶滅のおそれのある地域個体群とされている(レッドデータおきなわ 第3版)。ミヤコカナヘビは、2019年6月11日に県指定天然記念物に認定された。ミヤコカナヘビについては、生きものいっせい調査をもとに琉球大学が調査を実施し、新たな生息地の発見につながった。またこれまでの調査では、アオカナヘビ類の減少傾向がみられており、この傾向が続くかどうか、今後の調査が注目される。

**食べ物:** 昆虫やクモなど。

**生息環境:** 林縁や畑、草地、家の庭、御嶽などの木や草本の上、地面など。

**似ている生き物:** キノボリカゲ類、グリーンアノール

## 2. キノボリカゲ類

**方言名:** グリーンバンバン、キノボリサンペー、アタク、キータンジョーなど

**概要:** オキナワキノボリカゲ、サキシマキノボリカゲ、ヨナグニキノボリカゲの3亜種がいる(地域によって色や形態に違いがあるが、別種にするほど大きな違いではない場合、亜種として区別する)。オキナワキノボリカゲが奄

美諸島、沖縄諸島、サキシマキノボリカゲが宮古諸島、八重山諸島、ヨナグニキノボリカゲが与那国島に分布し、いずれも固有亜種。体長16~25cm。アオカナヘビよりも顔が角張って、頭や背中の中うろこがギザギザ。手足やしっぽは細長い。体表はザラザラしている。色は緑~茶色で、しっぽが緑と茶色のしましま。オス同士がケンカをするときは腕立て伏せのような動きをする。木の幹をらせん状に登って逃げる習性がある。オキナワキノボリカゲは絶滅危惧II類、サキシマキノボリカゲとヨナグニキノボリカゲは準絶滅危惧種(レッドデータおきなわ 第3版)。アオカナヘビ類とともに、これまでの調査で減少傾向がみられている。

**食べ物:** 昆虫やクモなど。

**生息環境:** 森林や林縁部、公園、御嶽など。木の上にいることが多いが、地面にいることもある。

**似ている生き物:** アオカナヘビ類、グリーンアノール

## 3. グリーンアノール

**方言名:** 特になし

**概要:** 体長12~20cm。背中はあざやかな緑のことが多いが、まわりに合わせて体の色を変え、茶色っぽいこともある。背中に白いすじが入ることもある。あごの下やおなかは白い。目の周りがアイシャドウのように青い。オスはのどにピンク色ののど袋(デュラップ)をもち、求愛や威嚇のために広げて見せるが、普段はたたんでいて見えない。日本の侵略的外来種ワースト100。小笠原諸島では、本種の捕食によって希少な昆虫類が激減しているといわれている。沖縄県では今のところ沖縄島中南部と座間味島で確認されているが、沖縄島北部やその他離島への分布拡大が懸念されている。特定外来生物に指定されており、飼育や移動は禁止されている。

**食べ物:** 昆虫や小型のは虫類など。

**生息環境:** 林縁や民家の庭木、低木林、畑の周辺などの木の上。日中は日当たりのいい場所で日光にあたり、夜間には樹木の枝や葉の隙間などの狭いところで休息する。

**似ている生き物:** アオカナヘビ類、キノボリカゲ類

## 4. シロツメクサ

**方言名:** 不明

**概要:**葉はふつう3枚だが、まれに4枚以上のことがある。クローバーとも呼ばれ、四つ葉のクローバーを見つけると幸せになれるといわれている。岩手県で見つかった56葉のクローバーがギネス世界記録に認定されている。葉に白いもようがあるが、ない場合もある。花は白い。ヨーロッパ原産の外来種。江戸時代にオランダからの荷物の詰め物として渡来した。

**生息環境:**公園や空き地。

**似ている生き物:**カタバミ、ムラサキカタバミ。(いずれも似たような3枚の葉だが、シロツメクサは葉に白いもようが入るのに対し、カタバミやムラサキカタバミの葉にはもようはない。またカタバミやムラサキカタバミの葉は一枚一枚がハート型だが、シロツメクサの葉にはカタバミのような深い切れ込みは入らない。カタバミは黄色、ムラサキカタバミは淡い紫色の花が咲くので、花があれば間違えることはない)

## 5. クビワオオコウモリ

**方言名:** カーブヤー、エーマカーブヤー

**概要:**頭から足まで20-25cmぐらいの大型のコウモリ。つばさを広げると1mほどにもなる。首の部分に淡黄色の首輪模様がある。日中は木にぶら下がって体を休め、夜活動する。沖縄県には、沖縄諸島に生息するオリイオオコウモリ、八重山諸島および宮古諸島に生息するヤエヤマオオコウモリ、大東諸島に生息するダイウオオコウモリの3亜種がいる。沖縄島では近年増加しているといわれている。一方、ダイウオオコウモリは絶滅危惧IA類(レッドデータおきなわ 第3版)に指定されている。

**食べ物:**モモタマナなどの植物の果実、花、葉。

**生息環境:**公園や緑地の木の上。

**似ている生き物:**特になし。

## 6. オオゴマダラ

**方言名:** アヤハーベールー(蝶と蛾の総称であるハーベールーと呼ぶ地域が多い)

**概要:**日本最大の蝶のひとつ。成虫の羽は白地に黒いま

だら模様。フワフワとゆっくり飛ぶのが特徴。幼虫は黒く、白い線と赤い点々がある。金色のさなぎが有名。今年、沖縄県の県蝶に指定された。

**生息環境:**林の中や林の近く。

**似ている生き物:**特になし

## 7. リュウキュウアブラゼミ

**方言名:** ナービカチカチー、ナービカチー、ギジギジー、ギージャー、ナービー、ナーバー、ナービカッチャラー、ナビガース

**概要:**茶色い羽のセミ。クマゼミに次いで大型。ジリジリジリと鳴く。6月中旬から10月頃まで見られるが、8月頃にはいったん個体数が減少する。クマゼミと一緒にいる場所では、クマゼミが鳴き終わった午後から鳴き声が多くなる。鳴き声が鍋にこびりついた汚れをかき落とす音に似ていることから、「ナービ(鍋)カチカチー」という方言名で呼ばれている。本州等に生息するアブラゼミとは別種で、奄美諸島と沖縄諸島だけに分布する琉球列島の固有種。

**食べ物:**樹液

**生息環境:**木の幹。市街地から山地まで広く生息するが、木々の繁った林を好む。

**似ている生き物:**その他のセミ類

## 8. クマゼミ

**方言名:** サンサナー、アササー、クガナー、サンサン、アササイ、サツサヤー、シャンシャン、ショーショーガーラ、ガール

**概要:**体が黒く、羽が透明の大型のセミ。シャンシャンシャンと鳴く。7月中旬に盛んに鳴き、8月中旬には見られなくなる。センダン、ホルトノキを好み、一本の木に何十匹も集まって合唱することがある。リュウキュウアブラゼミと一緒にいるところでは、クマゼミは午前中に鳴き、アブラゼミは午後には鳴くことで鳴く時間を分けているといわれる。また、明るいところではクマゼミが多く、木が茂った森の中ではリュウキュウアブラゼミが多い。また石垣島と西表島にはヤエヤマクマゼミがいて、山地の森林に生息し、平地のクマゼミとはすみわけている。ヤエヤマクマゼミの鳴き声はミンミンゼミに似て、ミーンミーンミーンと鳴く。

**食べ物:**樹液

**生息環境:**公園や平地の木の幹。

**似ている生き物:**ヤエヤマクマゼミ、その他のセミ類

## 9. スズメ

**方言名:**クラーグワー、クラー

**概要:**頭は赤茶色で、背中は茶色に黒のもよう、お腹はクリーム色。ほっぺたやのどが黒い。またくちばしが黒い。幼鳥は全体的に色が淡い。大きさは 14～15cm。植物の種子、昆虫などを食べる。米をよく食べ、米蔵の近くにいるので「クラー」と呼ばれるようになったといわれている。チュン、チュチュ、チュリリなどと鳴く。

**食べ物:**植物の種子、昆虫など

**生息環境:**畑、公園、家・道路など。屋根のすきまなどに巣をつくる。

**似ている生き物:**シマキンパラ(別名アミハラ。外来種と考えられている。11cm くらいで頭から背中茶色、胸は白地に茶色のまだらもよう。フィーフィーとかぼそい声で鳴く。畑や公園などで群れる)、セッカ(方言名チンチナー。12cm くらいで頭と背中は茶色に黒のもようでお腹は白。尾が長く、上下に飛びながらヒツヒツ、チャッチャツと鳴く。草むらにすることが多く、ふつつ群れない)